



資料4

神奈川県のアレルギー疾患対策の取組について

神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課
令和7年2月20日

本日の協議事項(目次)

議案1 アレルギー疾患に関する専門性の高い医療機関調査について

議案2 病院等連絡会の方向性について

議案3 災害時のアレルギー疾患患者等を支援するための環境づくりについて

議案1 アレルギー疾患に関する専門性の高い医療機関調査について

調査概要

◆ 調査目的

アレルギー疾患について専門性の高い診療を行っている医療機関を把握し、県民向けに情報提供するため、3～4年おきに集学的医療機関及び専門医療機関等へ調査を実施(前回:R3年度)。
調査後回答を集計し、県ホームページで公開。

◆ 調査実施時期

令和7年度

◆ 対象医療機関

- ・ 県の集学的医療機関または専門医療機関の指定を受けている医療機関(計32施設)
- ・ 上記の指定外で日本アレルギー学会教育研修施設の認定医療機関

◆ 調査方法

- ・ 医療機関の長宛に調査票を郵送で送付。郵送または電子メールでご回答いただく。

◆ 回答期限

送付から1か月後を想定

議案1 アレルギー疾患に関する専門性の高い医療機関調査について

◆ 調査項目 診療科ごと、○を付けてご回答いただきます。

※前回調査から追加した項目

1. アレルギー疾患

～主なアレルギー疾患～

- ・ 気管支ぜん息(小児)
- ・ 気管支ぜん息(成人)
- ・ アトピー性皮膚炎
- ・ アレルギー性鼻炎
- ・ 花粉症
- ・ アレルギー性結膜炎
- ・ 食物アレルギー
- ・ 薬物アレルギー
- ・ 接触皮膚炎
- ・ 蕁麻疹
- ・ ラテックスアレルギー
- ・ アナフィラキシー
- ・ 職業性アレルギー疾患

- ・ 好酸球性副鼻腔炎
- ・ 好酸球性中耳炎
- ・ 好酸球性消化管疾患
- ・ 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症
- ・ 食物蛋白誘発胃腸炎(FPIES)
- ・ 金属アレルギー

議案1 アレルギー疾患に関する専門性の高い医療機関調査について

2. 検査

- ・ 呼気NO測定
- ・ 呼吸機能検査
- ・ 気道過敏性検査
- ・ 誘発喀痰検査
- ・ 食物経口負荷試験(入院)
- ・ 食物経口負荷試験(外来)
- ・ 特異的IgE抗体検査
- ・ プリックテスト
- ・ パッチテスト
- ・ アレルゲン特異的リンパ球刺激試験(ALST)

令和6年度実施した患者数もご回答いただきます。

3. 治療等

- ・ 舌下免疫療法
- ・ 皮下免疫療法
- ・ 注射薬による分子標的薬(生物学的製剤)
- ・ 吸入療法指導
- ・ ピークフローメーターや喘息日記を用いた管理
- ・ 経口免疫療法
- ・ アドレナリン自己注射薬(エピペン®)の処方
- ・ 学校生活管理指導表の作成

4. 在籍状況 (常勤・非常勤は問わない)

- ・ 日本アレルギー学会 アレルギー専門医
- ・ 日本皮膚科学会 皮膚科専門医
- ・ 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 耳鼻咽喉科専門医
- ・ 日本眼科学会 眼科専門医
- ・ 小児アレルギーエデュケーター(PAE)

● ご意見いただきたいこと

(項目追加の可否)

・ 在籍人数

・ 医療機関外での活動の可否

(懸念)流動的・複雑で、回答率が下がってしまうのではないかな？

議案2 病院等連絡会について

県アレルギー疾患医療病院等連絡会 開催概要

- 令和5年度県協議会にて開催決定。令和6年10月開催。
- 県内の人材育成や診療連携の推進について、自由な意見交換の場
- 出席者（県協議会委員以外・各所属複数名参加可能）
県、国中心拠点病院、県拠点病院、大学病院、県医師会、県小児科医会

議案2 病院等連絡会の方向性について

まとめ① 専門医の偏在について

- ◆ 科ごとにアレルギー専門医の地域偏在状況が異なっている。ただ、アレルギー専門医を持っていないだけで診れないとするのは誤っている。
- ◆ 全国の拠点病院においても、皮膚科、耳鼻科、眼科の診療は、基本領域の専門医を持っている医師によって成り立っている、神奈川県も同様。
- ◆ 比較的人口の多い市でもアレルギー専門医が少ない市がある。大学がある市に偏っている。
- ◆ 政令指定都市と他の市町村ではアレルギー専門医数の特徴が異なっている。
- ◆ 成人アレルギーの専門医が少ないため、成人移行をどうすべきか悩んでいる。
- ◆ 成人のアナフィラキシーや食物アレルギーを、専門的に診るところが少ない。

議案2 病院等連絡会の方向性について

まとめ② 診療連携について

- ◆ 日頃、研究会等で顔の見える関係を構築しておかなければ、適切な紹介はできない。
- ◆ 末端まで様々な情報が届かない。紹介先について知り得るツールやチャンスが必要。
- ◆ 構築不足や専門医不足の地域もあり、逆紹介が難しいことがある。遠方から来院することは、患者にとって負担となる。
- ◆ 専門外来の内容を講演会で扱うと、関心を持つ診療所医師がいる。そこからも診療連携につながりそう。
- ◆ 他疾患で病院への紹介基準となるよう症例を簡潔にまとめたものを、周辺の診療所医師へ配布を計画中。アレルギー疾患でも可能ではないか。
- ◆ 最新治療について、初期段階で当病院へ紹介いただいても、比較的受け入れ可能。特に、新しい薬剤等は早めに専門施設へ紹介いただければ、導入の必要可否の判断も含め対応可能。
- ◆ ニーズが地域によって異なる。
- ◆ 疾病構造や治療方法が、10年前、5年前と大分変わってきている。
- ◆ 今の県ホームページでは紹介先を探せない。

議案2 病院等連絡会の方向性について

医療従事者向け講習会

令和6年度(R7.2.26開催)

内容

- ・よく遭遇する症例・診断・治療方法
- ・かかりつけ医に期待すること(診断後の管理方法等)

令和7年度以降

- 別医療機関へ講演を依頼し、講習会を開催したい。

ご依頼させていただいた際は、ご協力いただきたい。

**神奈川県**
令和6年度
**アレルギー疾患
対策医療従事者向け
講習会**
開催のお知らせ

- 日時 令和7年**2月26日**(水) 19:00~20:15
- 開催方法 Web開催(定員500名)
- 申込期限 令和7年**2月21日**(金)までにお申し込みください
- 参加費 **無料**(事前申込制)
- 対象者 医師、薬剤師、看護師、助産師、栄養士、保健師など
- 内容

「成人のアレルギー疾患診療～地域医療連携の充実にむけて～」
横浜市立みなと赤十字病院 アレルギー内科部長 橋場 容子 先生
※日本医師会生涯教育講座1単位(78・気管支喘息・COPD)を取得いただけます。

事前申込方法 URL 又は **二次元バーコード** からお申し込みください。
https://zoom.us/webinar/register/WN_ISaWhlnIQVxpOhGu2A-dQ



問合せ先

神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課 アレルギー担当
電話:045-210-1111(内線4738)

主催:神奈川県

議案2 病院等連絡会の方向性について

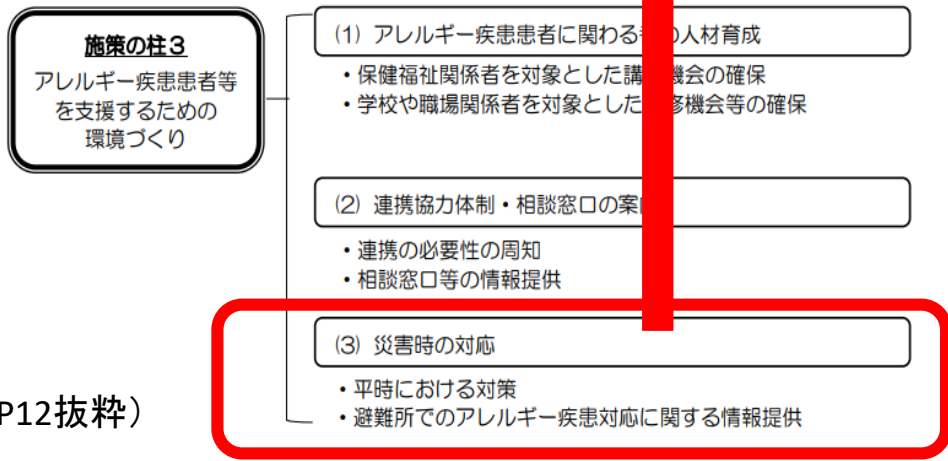
令和7年度の開催について

- 議題(案)
災害時のアレルギー疾患患者等を支援するための環境づくりについて

- 医療従事者や患者等、幅広い立場のご意見を頂戴したい。

⇒協議会が適切か？

- 今後の病院等連絡会は、必要に応じて開催したい。



県アレルギー疾患対策推進計画(P12抜粋)

議案3 災害時のアレルギー疾患患者等を支援するための環境づくりについて

取組予定

令和6年度から令和8年度にかけて整理をする予定です。

年度	取組予定
令和6年度	・協議会にて計画について協議
令和7年度	・県内市町村、関係機関等あて現状について照会 ・協議会にて方針等について協議
令和8年度	・県内市町村、関係機関あて意見照会し、総括 ・協議会にて市町村への情報提供内容について協議
令和9年度	・県内市町村、関係機関あて情報提供